

穂別町立博物館報

第 5 号

(昭和62年度)

穂 別 町 立 博 物 館

目 次

展 示 活 動	1
資料収集保存活動	2
調 查 研 究 活 動	3
普 及 教 育 活 動	4
運 營	6

● 展示活動

I 特別展

■ 第4回特別展『アンモナイトの系図』

「その先祖はデボン紀(約4億年前)にさかのぼり、中生代の海を埋め尽くすほどに栄え、白亜紀の末に忽然と姿を消したアンモナイト。

アンモナイトはその形の美しさと多様性によって、今もなお多くの人々のロマンを誘います。

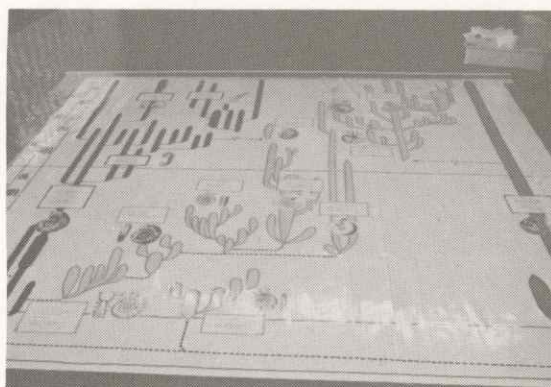
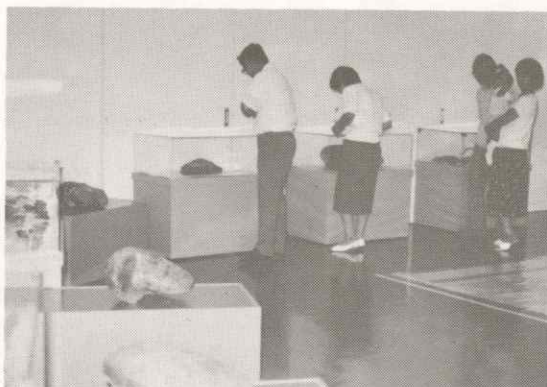
穂別町立博物館では第4回特別展として、『アンモナイトの系図』を企画しました。様々なアンモナイトの形や生態、その歴史などをお楽しみください。」(特別展ポスターより)

- 期間：昭和62年7月28日～8月9日
- 入場者数：649名(観覧者名簿に記載した者)
- 展示内容：(P：パネル、実：実物)

1. アンモナイトの系統樹 (P) 3点
2. 形態・解剖図・縫合線の進化 (P) 3点
3. アンモナイトの先祖と親戚 (実) 9点
4. 装飾性アンモナイト (実) 2点
5. 熱河恐竜の足跡化石 (実) 1点
6. 巨大なアンモナイト (実) 7点
7. 穂別で採集できるアンモナイト (実) 61点
8. アンモナイトの生態 (P) 3点
9. 生物界に見られる『らせん』構造(P) 3点
10. 数学的『らせん』 (P) 3点
11. アンモナイトとコンピューター (P) 4点

- ビデオ学習コーナー

地質・化石関係ビデオなどを放映



● 資料収集保存活動

昭和62年4月1日から昭和63年3月31日までに
寄贈、移管、購入、採集された資料を順に記した。

(敬称略)

I 寄 贈

〔人文系資料〕	8件22点
丸時計ほか	(5点)横山 幸枝
クジラ尺物差	(1点)坂井 弘治
木製滑車・電気あなか	(2点)北林ヨシノ
優勝旗ほか	(4点)森 茂
小学書き方手本	(1点)高橋 孝三
大東亜戦争実記ほか	(5点)高橋 エツ
反古紙(仁和駅通)	(1包)西 秀隆
簡易測量機ほか	(3点)柳原 ハツ

〔自然系資料〕	4件27点
野鳥写真	(24点)笠巻袈裟男
植物標本(クマガイソウ)	(1点)笠巻袈裟男
野鳥(トビ)	(1点)笠巻袈裟男・新居 良二
野鳥(アオサギ)	(1点)稲本 穰

〔自然史系資料〕	10件
貝化石入りノジュール	(2点)笠巻袈裟男
岩石資料(南極産)	(2点)小山内康人
木の実化石(大夕張産)	(1点)千代川謙一
アンモナイトおよび顎器	(2点)笠巻袈裟男
イノセラムス化石	(2点)笠巻袈裟男
アンモナイト化石	(1点)千代川謙一
岩石資料(コキナ石灰岩)	(1点)泉 雄治
サメ脊椎骨印象化石	(1点)千代川謙一
貝化石	(多数)今金町教育委員会
アンモナイト化石	(2点)中條 太光

II 移 管

〔自然系資料〕	1件
航空写真ほか	(多数)穂別町役場

III 採 集

〔自然史系資料〕		
5月21日	字長和	白亜紀アンモナイト化石
7月24日	浦河～広尾	日高山脈の岩石資料
9月12日	字穂別	新生代脊椎動物化石
9月12日	字平丘	中生代脊椎動物化石
11月18日	字平丘	白亜紀アンモナイト化石

● 調査研究活動

I 穂別町内地質調査

長和の澁痕付近や脊椎動物化石産地を中心にスポット調査を行っている。今後は調査地域範囲の広域化と系統化が必要である。

町内地質ガイドブック作成のため予備調査を開始した。

II 脊椎動物化石の研究

[デスモスチルス]

木村方一、北海道教育大学教授に研究委託。

公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、11-23。

穂別町立博物館研究報告〔2〕、51-62。

投稿準備中

[クジラ]

木村方一、北海道教育大学教授に研究委託。

投稿準備中

[ウミガメ]

平山 廉、京都大学大学院院生に研究委託。

公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、17-30。

投稿準備中

地徳 力、学芸員が別資料で研究開始。

投稿準備中

[長頸竜]

仲谷英夫、香川大学助手に研究委託。

公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、37-40。

穂別町立博物館研究報告〔2〕、43-49。

投稿準備中

[モササウルス]

鈴木 茂、穂別町立博物館前学芸員が研究継続

公表論文：穂別町立博物館研究報告〔2〕、31-42。

地団研専報〔30〕、45-66。

地徳 力、学芸員が別資料で研究開始

日本地質学会第94年学術大会(大阪)

で一部発表。

[サメ]

久家直之、京都大学大学院院生に研究委託

公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、33-36。

投稿準備中

III 刊行物

穂別町立博物館館報、第4号、12頁。

昭和62年7月31日発行

穂別町立博物館研究報告、第4号、47頁

昭和62年7月31日発行

■ 著者及び論文題名

地徳 力：石灰質岩石からの微化石の産出とその保存状態。1-9、pls. 4。

国分英彦：勇払郡占冠村ニウ地域における神居古潭帯の蛇紋岩類の進入時期。

11-22、pls. 2。

鎌田耕太郎・地徳 力：砂川低地帯東縁の鮮新統滝川層に見られる潮汐三角州堆積物(予報)。23-31。

新井田清信・福井敏之：富内北方地域の堆積性蛇紋岩類。33-47。

● 普及教育活動

博物館職員の削減（館長→教育長兼任、嘱託職員→退職、未補充）により十分な活動が行えず、必然的に職員の負担が少なく済む活動のみとなった。今後の方針を充分に考えて行かなければならないであろう。

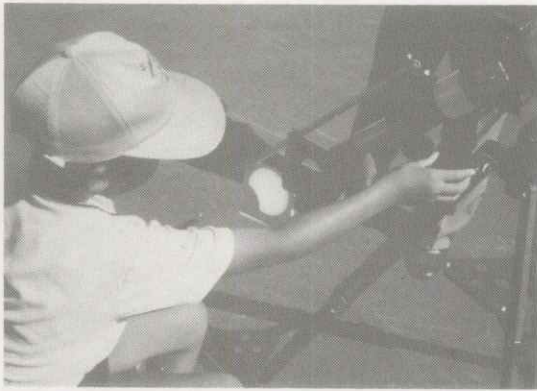
I 博物館講座

【自然観察会】

『（部分）日食観察会』

滅多に見られない自然現象に親しみながら学習する場として設定した。このような特殊な自然現象のみでなく、有り触れていて普段は気にも留めないが、しかし良く観察すれば、実はおもしろい現象に興味を持たせる機会を造って行きたい。

- ・開講日：昭和62年9月23日
- ・場所：博物館前庭
- ・参加人数：15名



【化石クリーニング教室】

5月から10月までの第1・3日曜日に開講。要望があれば随時開講している。恒例化したため参加人数は記録していない。

II ホッピーだより（博物館広報）

【主な内容】

- | | | |
|-----|-------------------------|-------|
| 39号 | 恐竜の本の紹介 | 62年4月 |
| 40号 | 自然観察入門＝その1＝
ゴミを拾いながら | 62年5月 |
| 41号 | 自然観察入門＝その2＝
崖を見よう | 62年6月 |

- | | | |
|-----|-------------------------------------|-------------|
| 42号 | 自然観察入門＝その3＝
河原の植物群落 | 62年7月 |
| 43号 | 自然観察入門＝その4＝
底生動物を調べる | 62年8月 |
| 44号 | 日食が見られます | 9月23日 62年9月 |
| 45号 | あなたはどのくらい博物館を知っているか
（施設・組織・活動 編） | 62年10月 |
| 46号 | あなたはどのくらい博物館を知っているか
（ようこそ博物館へ 編） | 62年11月 |
| 47号 | あなたはどのくらい博物館を知っているか
（化石・古生物 編） | 62年12月 |
| 48号 | 「辰・龍・恐竜」 | 63年1月 |
| 49号 | あなたはどのくらい博物館を知っているか
（地形・地質 編） | 63年2月 |
| 50号 | あなたはどのくらい博物館を知っているか
（人文 編） | 63年3月 |

III その他

〔北海道大学理学部地質学鉱物学教室地質巡検〕
昭和62年5月25日：北海道大学理学部地質学鉱物学教室学生（一行26名）が地質巡検に来館（指導：藤原嘉樹助教授）

〔鶴川町教育研究会・理科サークル研修〕
昭和62年6月2日：鶴川町教育研究会・理科サークル（一行6名）が研修に来館

〔帯広ボーイスカウト・体験学習〕
昭和62年8月23日：帯広ボーイスカウト（一行26名）が化石採集及び化石クリーニング体験学習に来館

〔石狩沼田町化石研究会研修〕
昭和62年12月9、10日：石狩沼田町化石研究会（一行3名）が化石クリーニング実習のため来館

〔穂別町教職員館内視察〕
昭和62年10月24日：穂別町教職員（一行20名）が来館

〔町内学校の利用〕

- 4月16日：穂別中学校特殊学級生徒（2名）
7月2日：穂別小学校1学年（36名）
12月10日：穂別小学校3学年（46名）
12月11日：穂別中学校考古学研究クラブ（6名）
12月15日：穂別中学校特殊学級生徒（2名）
12月16日：穂別小学校3学年（46名）
1月22日：穂別中学校考古学研究クラブ（6名）
2月19日：穂別中学校考古学研究クラブ（6名）
2月26日：穂別中学校考古学研究クラブ（6名）
3月11日：穂別中学校3学年（51名）



〔町外学校の利用〕

- 5月16日：札幌市立八条中学校（350名）
5月29日：静内町立静内小学校（92名）
6月18日：札幌市立豊園小学校（76名）
6月26日：札幌市立大通小学校（56名）
7月3日：苫小牧市立沼ノ端中学校（111名）
7月3日：札幌市立西岡北小学校（107名）
7月16日：苫小牧市立弥生中学校（150名）
7月17日：札幌市立山鼻小学校（100名）
7月17日：苫小牧市立開成中学校（112名）
7月18日：鶴川町立生田小学校（19名）
7月26日：札幌市立真駒内緑小学校（29名）
7月26日：早来町立安平小学校（49名）
8月30日：千歳市立自由ヶ丘小学校（30名）
9月17日：道立鶴川高等学校（79名）
9月26日：美瑛市立美瑛中学校（165名）

● 運 営

I おもなできごと

[昭和62年度]

- 4月2～4日 学芸員、日本地質学会(大阪大学)に出張、講演
- 4月5日 近藤 寛氏(早稲田大学)来館
- 4月8日 鶴川営林署長ほか4名来館
- 4月27日 三面マルチスライド・オーバーホール
- 5月5日 乾 芳宏氏(新冠町郷土資料館)来館
- 5月29日 胆振教育局主査(2名)視察
- 6月6日 北川芳男氏(静修短大教授)来館
- 6月12日 鹿追町教育委員会(4名)視察
- 6月30日 豊頃町教育委員会、教育長ほか(4名)視察
- 7月9日 加瀬友喜氏(国立化学博物館)来館
- 7月21日 新得町議会議員(7名)視察
- 7月22日 鹿追町議会議員(8名)視察
- 7月22～24 学芸員日高山脈地質巡検に出張
- 7月25・26 穂別流送祭り(博物館駐車場)
- 7月28～8月9日 第4回特別展「アンモナイトの系図」開催
- 8月6日 後藤道治(富山市化学文化センター)来館
- 8月18日 陸別町議会議員(7名)視察
- 8月22日 松本達郎(九州大学名誉教授)来館
- 8月29日 沼田町教育委員会(5名)視察
- 9月3日 木村方一氏(北海道教育大学教授)来館
- 9月23日 博物館講座自然観察会「日食観察会」
- 9月29日 苫小牧市博物館学芸員(2名)来館
- 10月7日 余市町教育委員会(5名)視察
- 10月10日 宮沢雄三氏(宮沢賢治記念館・副館長)来館
- 10月27日 胆振管内市町村長(23名)視察
- 11月1・3日 町民文化祭展示「穂別の化石」(博物館協力会)
- 11月10日 乾 芳宏氏(新冠町郷土資料館)来館
- 11月13日 ホール配水管工事
- 11月17・18日 正面玄関塗装工事
- 11月19日 今金町教育委員会(18名)視察
- 12月18日 RAVオーバーホール完了
- 12月31日～1月6日 年末年始休館

- 1月22日 厚真町議会議員(20名)視察
- 2月6日 鈴木信次氏(スズケン会長)来館
- 2月18日 泉 征三郎氏(道立林産試験場技術員)来館
- 2月26日 鈴木信次氏(スズケン会長)来館
- 3月10日 赤松守雄氏(北海道開拓記念館)博物館運営指導に来館
- 3月14日 アオサギ来町確認(笠巻袈裟男氏)
- 3月15日 博物館協議会開催
- 3月17日 安西輝恭氏(胆振教育局)視察
- 3月23日 岡崎 誠、丸田道夫(ぎふ未来博)来館
- 3月30日 江別市文化財保護委員(6名)視察

II 組 織



職員名簿(昭和63年3月31日現在)

館長 今 幸太郎
学芸員 地 徳 力

博物館協議会委員(昭和63年3月31日現在)

会 長 久保田瑞真
副会長 荒木新太郎
委 員 森本 信雄
委 員 武田 武夫
委 員 田村 勝代
委 員 佐藤 嗣夫
委 員 中村 忠良
委 員 木戸 俊雄

(昭和63年7月31日まで)

Ⅲ 利用状況

昭和62年度入館者数

月	一 般	学 生	計	開館日
4	227	85	312	25
5	1,106	933	2,039	23
6	501	217	718	24
7	767	961	1,728	26
8	1,359	814	2,173	25
9	650	442	1,092	23
10	540	88	628	25
11	504	271	775	22
12	69	118	187	25
1	106	57	163	20
2	123	32	155	22
3	217	132	349	25
計	6,169	4,150	10,319	285

Ⅳ 博物館観覧者アンケートの結果と解析

博物館にとって観覧者層の動向等についての情報を集めておくことは非常に重要である。

穂別町立博物館に来館する観覧者の住所、職業、観覧の動機、感想などについてアンケート調査を行いこれについて解析を行ったので、これについて報告する。

アンケート実施時の展示は常設展のみで、穂別町立博物館としては年間入館者数がピーク時に当る。

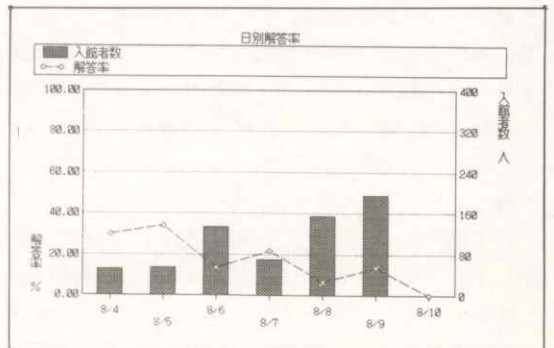
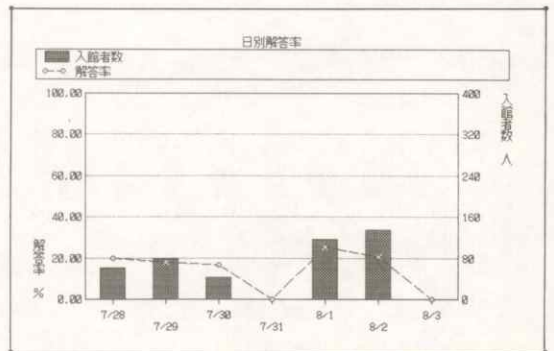
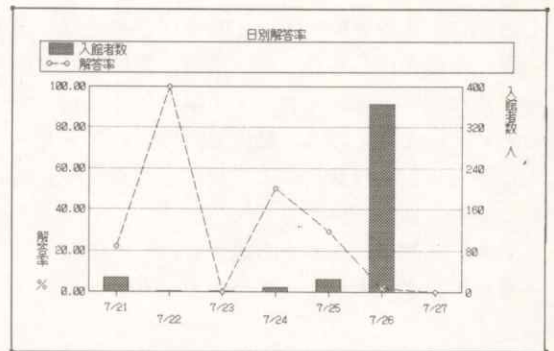
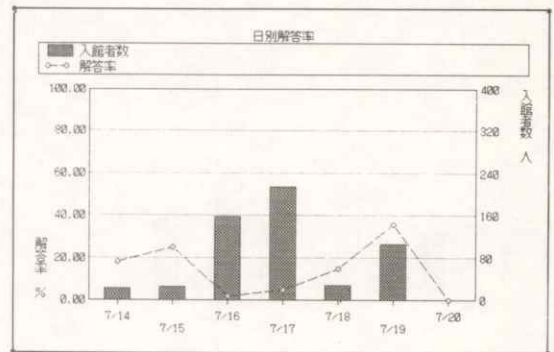
● アンケート実施期間

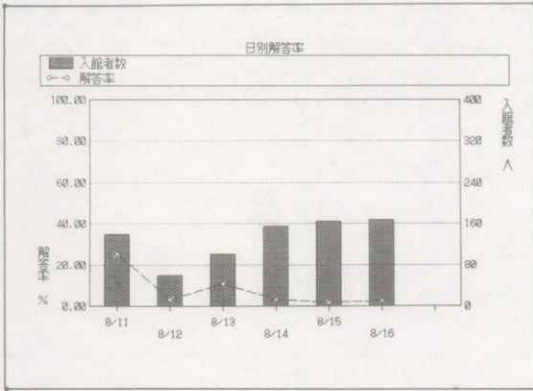
昭和62年7月14日～8月16日(29日間)

● 総回答者数

346名

■ 回答率

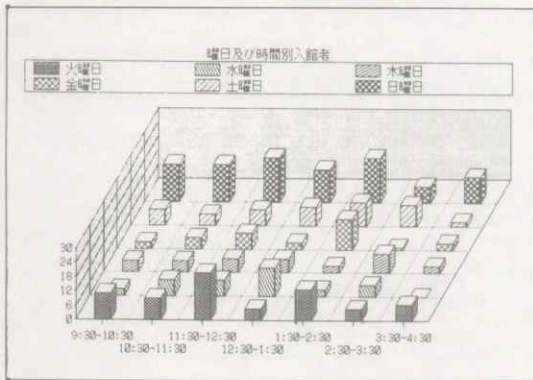




〔考察〕 入館者数の多いときに回答率が低くなっている傾向が見られるが、構成人数の多い団体（学校など）にはアンケート用紙を渡さなかったことによると思われる。結果としてこのアンケートは個人入館者の意見および状況を強く反映しているものとなっている。

また、入館者数のみを考察すれば、火曜日に時々集中し、水・木は少なく金・土・日に多い。

■ 曜日および時間別入館者（アンケート回答分）



〔考察〕 この数値は、アンケート回答者のもので、入館者全体のものではない。従って、特に以下の項目の解答・データ・意見などは全体の傾向は反映しているものの、比較的博物館に対しての意識が高い人の傾向を示していると考えられるべきであろう。

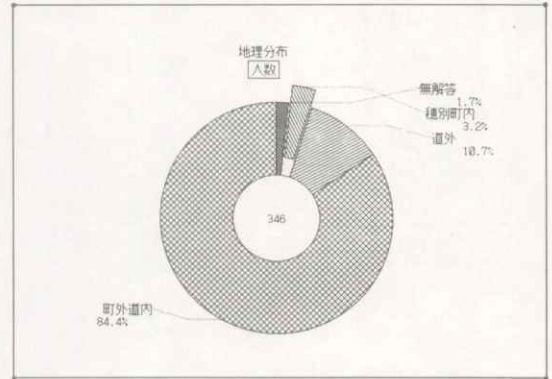
11：30－2：30頃に入館者が集中しており、午前と午後では、午前中に入館者が多い。夏休み中とは言え日曜日に集中するのは、(1)30代の夫婦が10代の子供を連れて観覧する傾向が見られる(後出)。

(2)子供達だけでは来館しづらいという本町の地理的要因が反映していると思われる。

まれに火曜日に集中することについては原因が不明である。月曜日が休館日のためかも知れない。

■ 観覧者の地理的分布

穂別町内	11名 (3.2%)
町外道内	292名 (84.4%)
道 外	37名 (10.7%)
無 解 答	6名 (1.7%)



A) 穂別町内の観覧者は全て字穂別（穂別町市街）在住である。

B) 町外道内

札幌市	77名	南幌町	3名
幌小牧市	57名	幌別町	3名
苫小牧市	14名	更路市	3名
室蘭市	12名	更路市	2名
江別市	9名	根室市	2名
厚真町	9名	音更町	2名
千歳市	7名	津内町	2名
浦河町	7名	函館市	2名
旭川市	6名	稚内市	1名
登別市	6名	虻田町	1名
白老町	6名	芽室町	1名
岩見沢市	5名	興部町	1名
帯広市	5名	釧路町	1名
石狩市	5名	山手町	1名
門別町	5名	栗山町	1名
伊達市	4名	上磯町	1名
小樽市	4名	富良野町	1名
新冠町	4名	壮瞥町	1名
平取町	4名	早来町	1名
鹿静内町	3名	追分町	1名
		別海町	1名

計 292名

〔考察〕 来館者の傾向と分布は昭和61年時とほとんど変化はない。若干、検体数が増えたため分布が広がり密度も増しているがほとんど同じと見なして良いであろう。

C) 道 外

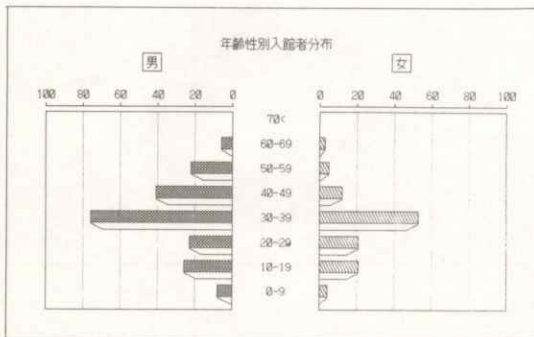
東京都 11名	岩手県 1名
千葉県 9名	群馬県 1名
神奈川県 4名	埼玉県 1名
京都府 2名	秋田県 1名
大阪府 2名	青森県 1名
徳島県 2名	奈良県 1名
茨城県 1名	

計 37名

〔考察〕 道外からの観覧者については、先年と同じく検体数が少ないため解析が困難である。

しかし、この傾向についても昭和61年時とほとんど変わらないと見なして良いであろう。

■年齢性別入館者分布



このデータも昭和61年と同じく10代の膨らみを除けば30代を中心としたきれいな紡錐型の分布をしている。

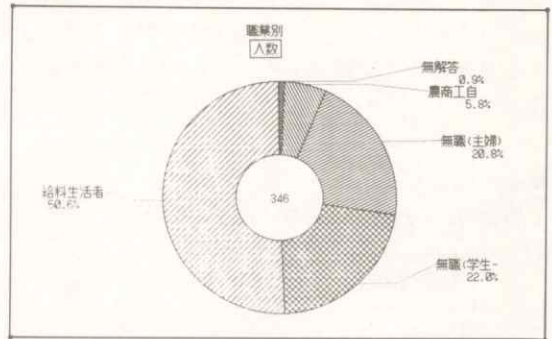
やはり、30代の夫婦が10代の子供を連れて観覧に来ていることが推定できる。

0~20代にかけては男女ともほとんど同じ比率であるにもかかわらず、女性全体の割合が低いのは、40代以上の女性の観覧者が少ないのが原因である。

■職業別入館者分布

無 職	(学生・無職)	76名	22.0%
	主 婦	72名	20.8%
給料生活者(サラリーマン)		175名	50.6%
農商工・自営・自由業		20名	5.8%
無 回 答		3名	0.9%

計 346名

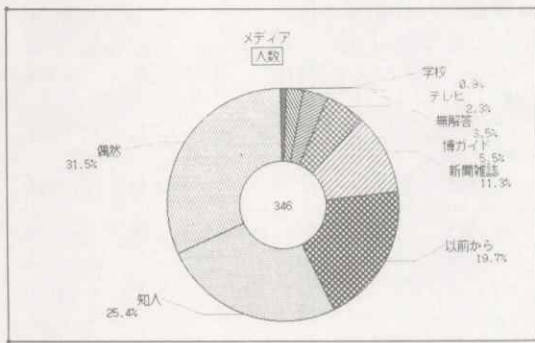


〔考察〕 省略

■メディア解析

〔質問〕 穂別町立博物館をなにごとでお知りになりましたか？

メディア	人	%
新聞・雑誌など	39	11.3
テレビ	8	2.3
博物館ガイドブック	19	5.5
穂別町へ別の用事で来て偶然	109	31.5
知人に聞いて	88	25.4
学校で教えられて	3	0.9
何時の間にか (以前から知っていた)	68	19.7
無回答	12	3.5
計	346	

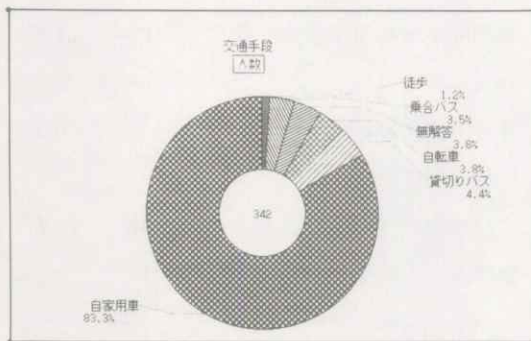


〔考察〕 このデータも昭和61年とほとんど変わらない。新聞・テレビ・雑誌・博物館ガイドブックなど合わせて2割であり、偶然知ったは3割となっている。

■ 来館時の交通手段

〔質問〕 今日の交通手段は？

交通手段	人	%
乗合バス	12	3.5
乗切りバス	15	4.4
自家用車	285	83.3
自転車	13	3.8
徒歩	4	1.2
無回答	13	3.8
計	346	100%



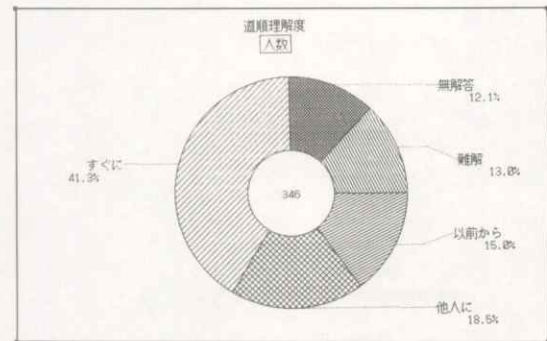
〔考察〕 交通手段の傾向も去年とほとんど変わらないが、富内線が廃線になった分、乗合バスが僅かに増えているようである。

また、自転車に関しては、住所の関係から、たぶん自動車と読み違えた人が多いようである。

■ 道順理解度

〔質問〕 博物館への道順はすぐに解りましたか？

道順理解度	人	%
以前から知っている	52	15.0
すぐに解った	143	41.3
途中で人に聞いた	64	18.5
非常に解り難かった	45	13.0
無回答・その他	42	12.1
計	346	100%

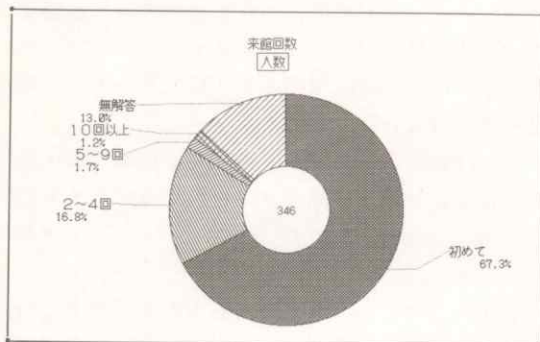


これも昭和61年のデータとほとんど変わらない。非常に解り難かったという人が僅かに減っているのが救いである。

この数を1割以下に減らしたいものである。

■ 来館回数

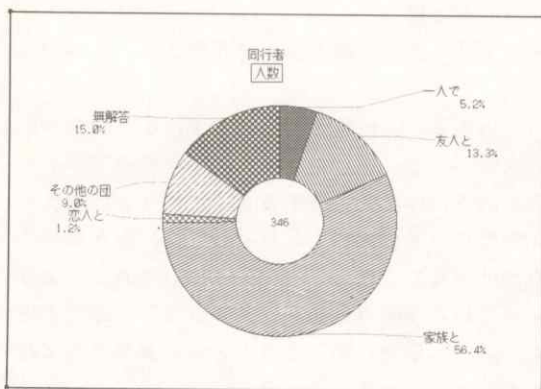
〔質問〕 穂別町立博物館には何回ぐらい来館していますか？



〔考察〕 これも昭和61年と全く変わらない値が出ている。なお、10回以上観覧している人は2名が穂別町在住で、残り2名は札幌市と苫小牧市在住である。

■ 同行者

〔質問〕 今日はどなたとご来館になりましたか？



昨年のアンケートには無かった質問である。

大部分は「家族」で観覧し、次いで多いのが「友人」と「その他の団体」である。

なお、大人数の団体にはアンケート用紙を渡していないため、学校などの団体の意見は反映されていない。

■ 興味度 1・興味度 2

〔質問〕 穂別町立博物館のような博物館に興味がありますか？

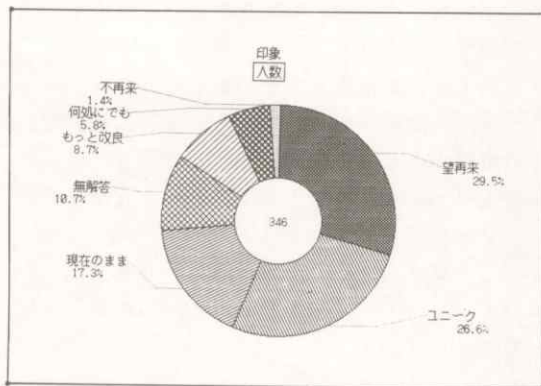
〔質問〕 博物館・美術館・水族館・動物園などに興味がありますか？

〔省略〕

● 印象

〔質問〕 穂別町立博物館の印象は？

印象	人	%
何処にでもある博物館だ	20	5.8
非常にユニークだ	92	26.6
もう来たくない	5	1.4
また見に来たい	102	29.5
もっと改良すべきだ	30	8.7
現在のままでよい	60	17.3
無回答	37	10.7
計	346	



〔考察〕 今年のこの項目には(いくつでも)と言う注意書きを付けなかった為、大部分の人が1つしか選択しなかった。従って、各選択枝を選んだ人数は減っているが、その比率は全く同じであった。

■自由意見（一部）

【設備・展示物】関係

- 穂別町の歴史コーナーでは、蠟人形を使用した方がもっとリアルに印象づけられる（31男・28女）
- 先史時代（縄文時代からアイヌ時代まで）を、別棟で全道一のものを作るべきだと思います（45男）
- 現代（明治～）のものよりも、恐竜などの時代を重点的に、もっと豊富に展示し、それを穂別の博物館の特徴としたらよいと思う（35女）
- 展示物に手を触れても大丈夫なのではないですか？（23女）
- 更に充実させて下さい（37男）
- もっと広くして欲しい（14男）
- 展示物、特に化石を多くしてほしい（？男・27男・11女・40男）
- 企画力が秀逸である（28男）
- 失礼ですがさほど大きくない町の博物館としてはあまりにも立派で、管理も良く、感心敬服致しました。今後のご発展をお祈りします（40男・28女・37女）
- 規模では、都市に及ばないかもしれないが、1つ1つの説明がわかりやすく、感心した。町立の博物館としては最高（28男・28男）
- 30分ぐらいで済むような工作教室などが有ると良いと思います（38女）
- 詳しい案内人を置いてください（40男）
- コインをカバーしてあるビニールがやや厚めで見づらい（35女）

『展示物に人形を使用して効果を上げるのは良くある方法である。人形の使用に関しては全く実物そっくりな物が、あるいは全く抽象的な物の使用が鉄則であり、中途半端な物はむしろ使用しない方がよい。その意味では蠟人形の使用は良い例と言えるが費用や展示スペースからは一考を要する。』

『人類史について全道一にするには北海道開拓記念館を越える館の規模が必要で穂別町としては現実的でない。またアイヌ民族関係では平取や白老に専門館が有りこれも現実的ではない。やはり

中生代の化石を中心とした自然史博物館が穂別町立博物館の目指す姿であろう。』

『展示スペースが狭い、展示物が少ないという意見がいくつか有るが、これについては展示替えの時期を契機に対応していかなくてはならないであろう。反面、町の規模の割には立派だと言う意見も多く有難い限りである。』

『工作教室に関しては、穂別町立博物館は大都市の総合博物館とは異なり、自然史の総合博物館を目指すべきと考えるので、化石クリーニング教室で対応したい。』

『案内人についてはすでに懸案の事項であるが、職員の増員は不可能なので、ボランティア等で対応したい。』

【AV】関係

- マルチスライドは少し早過ぎる様に思います。25分ぐらいの方が良いのでは？（23女）
- 映像（VTR・スライド）も有り、理解度が深まるし、素通りで通過してしまえない（のが良い）（31男）
- VTRの説明が解り易くて非常に良い（38男）

『別項目の一般感想で解るように小学校低学年には難しいという意見が多く、小学校高学年から大人あるいは研究者に至るまで説明などの構成が非常に良いとの評判である。これは、ただ展示するだけでなく、化石や自然史について普及しようとしている本館の姿勢が反映されている為だと考える。この姿勢は堅持するとともに発展させて行きたい。』

【PR・道標・看板】

- 穂別町の入口近くに博物館の看板を立てた方が多くの人々にPR強化になる。（31男）
- 町内の目立つ所に案内図が欲しい（40女）
- 博物館への道標が解り難い（33女）
- 案内板を巨大にしてほしい（45男・35女）
- （穂別町立博物館は）旅案内の本等には載っていないのもっとPRすべきだ。ただしあまり人が集まると（ゆっくり見られなくなるので）心配だ（28男・49男）

- 昔から恐竜などが好きで、骨格標本が在ると聞いて飛んで来ました。他に僕のような者も、単車に乗っている連中にいると思いますから、もっとアピールしたらどうでしょう(23男)
- こんな良いものを多くの人に見て貰うために国道沿いに多数の看板を(32男・33男)
- もう少し新聞などに広告を出した方が良い(33男)
- (博物館への道順は)以前から知っているが、それでも解り難い(?女・41男)
- キャンプ場から博物館までの道のりが長くて不安だった(17男)
- 道を間違えた(10男)

『総じてPR不足だと言う意見が多く、国道(道)や町市街地に案内看板が必要だとしている。また、町内の道の構成が複雑であるための不満も出ている。市街地再開発に関連して道の切り替えが話に登っているというが、それまでの間の対策も必要であろう。いわゆる方向音痴は必ず存在するものであるが、 $\frac{1}{3}$ の人が解りずらかった、途中で他人に聞いたと答えているのはやはり問題であろう。』

【料金】関係

- 料金を取られずに観覧出来たらいいですね(29女)
- 料金が安くて良い(38男)

『博物館法では、やむを得ない事情が有る場合以外は料金を徴収してはならないことになっているが、無料観覧では観覧者に(お金を払ったのだから)なにか吸収して帰ろうという気持ちを持たせずらいし、不特定多数の人間が館内に多くいる状態では真面目な観覧者が迷惑することになる。また本館の立地条件を考えるならば、観光地並の料金は入館者を減らす結果となろう。料金の改定を考えるとすれば、上記2つのことを熟慮しなければならない。』

【一般感想】

- また子供を連れて来たいと思っています(36女・38女)

- 今度は家族にも見せたい(52男)
- 子供が大変に喜び、来年は横浜のいとこが遊びに来るので是非見せに来たいと思います(??)
- もう少し解り易くしてほしい(10男)
- 勉強になりました(11女)
- 展示に一貫性が在り、小中学生にも理解し易い(34男)
- 説明が詳しくて良く解った(35女)
- とても良かった(58男)
- 面白かった(16女・17女・38男)
- 素晴らしい、素晴らしい、お見事、やった!(16女)
- 愉しく見学させていただきました(36男)
- 最高!とても勉強になった(12男・20男)
- 思ったより充実していて良かった(31男)
- 全く飽きる事が無く面白かった(23女)
- 子供がとても興味をもって見てくれ、連れてきて良かったと思ってます(33女・36男・36男)
- 興味深く見せていただいた。子供は恐竜が、親は昔の農機具に関心があった(35男)
- とても立派で驚いた。友人を連れてまた来たい(24女)
- 学芸員の方々を始め運営、管理に当る方々、ご苦労さまです。また来館するのを楽しみにしています(40男)
- アンモナイトの大きさに驚きました(23女)
- ホッピーという愛称はとても素敵だ(16女)
- とても昔の事が解り易く、特に戦争中の物や写真などが詳しく描いてあったりしたので、良かったです(19女)
- 今日とは“太古”の息遣いに再び会うことが出来ました。有難うございます(40男)
- ここに通う子供達や大人の中からジュリーマンの様な人々がきっと育って行くに違い在りません(40男)
- 場内が整備され、美しい博物館である(35男・?女)
- ゆったりとした気分で見られた(31男)
- 小さくとも心の暖まる、このような博物館が存在することがとても嬉しく思われます(40男・32女)
- …偉大な歴史の足跡を大切に温めてください(29女)

- 化石や博物学を愛しておられる方々の情熱が感じられます(40男)
- 恐竜絶滅説は、今主流となりつつある巨大隕石衝突説に変えた方がいいと思った(30男)

『いづれも最大級の賛辞が多く嬉しく思うが、アンケートを作った側としては、良くない点を明記していただいた方が参考になる。これらの意見を参考に良い点を伸ばして行きたい。』

〔結論〕

穂別町立博物館の観覧者の一般像は、30代の夫婦と10代の子供で構成される家族が、自家用車による日曜日ないし土曜日の日帰り旅行のついでに穂別に博物館があることを知って、「どうせたいしたことのない博物館だろう」、「道が解り難いなあ」と思いながらも、比較的簡単にたどり着き、思ったより立派な外観にまず感心し、クビナガリュウやモササウルスを始めとする古生物にびっくりし、博物館を出る頃には「また来たい」、「もっと多くの化石を見たい」、「何故もっと宣伝しないのだろう」と考えるようになっている。

V 昭和62年度予算

費目	予 算 (単位千円)
報酬	36
共 済 費	115
賃 金	2,673
報 償 費	573
旅 費	208
需 用 費	5,701
	消耗品費 426
	燃 料 費 1,090
	食 糧 費 81
	印刷製本費 655
	光 熱 水 費 2,299
	修 繕 費 1,150
役 務 費	490
	通信運搬費 309
	手 数 料 115
	保 險 料 66

委 託 料	1,175
使用料及び貸借料	528
工事請負費	0
原 材 料 費	72
備品購入費	95
負担金補助及び交付金	169

博物館費合計 11,835

VI 利用案内

開館時間 午前9時30分～午後4時30分

休 館 日 月曜日・祝日の翌日・毎月月末・
年末年始(12月30日～1月6日)

観 覧 料

	一 般	小中学生・高校生
個 人	200円	50円
団体(10人以上)	150円	30円

減免

- 1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合
- 2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合
- 3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画のため入館する場合
- 4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
- 5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館報第5号

(昭和62年度)

発行 1988年7月1日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 さんようプリント

苫小牧市柏木町1丁目16-9

